

茨木病院

(平成 27 年 3 月 2 日訪問)

平均在院日数 217 日 (平成 27 年 2 月 28 日)

積極的な取組など

- ベッドごとにナースコールが設置されていた。
- 意見箱の側には、投書した意見が回答されるまでの流れに関するわかりやすい掲示があった。投書への回答は過去の回答の上に最新のものを重ねて掲示され、過去の投書や回答を見ることができる。意見箱は毎週回収し、1 週間以内に回答を掲示するようにしていた。意見箱が活用されていた。
- 患者から「入院したことに納得いってない。主治医の勧めで精神医療審査会に電話をした。退院はできなかったが、今ヘルパーに来てもらうための会議をしたり、退院準備が進んでいる」との声があった。
- 急性期治療病棟内に認知症ユニットができ認知症の患者と他の疾患の患者の居場所を分けることでトラブルも減り、お互いに過ごしやすくなっていた。

前回の訪問(平成 21 年 8 月)から改善出されていたこと等

- 前回、本 3 病棟のデイルームから詰所の中を見ると、入院患者の氏名一覧を読めたことについては、改善され、そのようなことはなくなっていた。
- 東病棟の隔離室にある床から天井までの鉄格子は「(病院としては)改善すべきと認識しているが予算上の優先順位から撤去はできていない」とのこと。

病院について

平成 22 年に東 3 病棟、平成 23 年に東 1 病棟を、開放病棟から閉鎖病棟にした。閉鎖病棟にした理由は、外出時に通る階段で転倒した高齢患者が複数いたこと、以前であれば閉鎖病棟に入院し、開放病棟へ移って退院に向けた準備をしてから退院する患者が多かったが、今は閉鎖病棟に入院して開放病棟には移らずに入院した閉鎖病棟から退院する患者がほとんどであるためとのことだった。平成 26 年 1 月より病院内全面禁煙になった。

意見箱・人権委員会

意見箱は公衆電話の横に設置されていた。意見箱は毎週回収し、顧客満足度委員会で検討のうえ、1 週間以内に回答を掲示するようにしている。

人権委員会は副院長が委員長で、月 1 回開催される。外部委員はいない。顧客満足度委員会での回答に不備が無いか、行動制限、行動制限を一時的に開放して対応できるかどうかを確認する開放観察のあり方や、意見箱には入らない個別の苦情などを検討しているようだ。

金銭管理

金銭管理料は 1 日 108 円。ベッド横の床頭台に鍵付きの引き出しがあり、その使用料は無料。

選択メニュー

朝食はパンかご飯のいずれかを選ぶことができ、週 1 回昼食が選択メニューだった。

入浴

入浴は週 3 回、その他の日は毎日シャワーを使う。

薬

看護師 2 名が訪室し患者に手渡す。

退院支援

相談室近くに家族会や地域の事業所、大阪精神医療人権センターの機関紙や精神保健福祉に関する書籍が置かれ、自由に読めるようになっていた。

PSW の担当は、病棟が 6 名、デイケアが 2 名、院内の就労支援センターが 2 名、地域の施設が 3 名、相談支援事業所が 2 名、法人の管理部門に 2 名。

地域移行・地域定着支援事業を利用しているのは 6 名程。患者に対し退院を働きかける初期から事業を利用できる市もあれば、退院時期が決まって始めて利用できる市もあり、利用しやすさに差がある。

電話

本館には各デイルーム内にテレホンカードのみ利用できる公衆電話、詰所から最も離れた位置にある個室にテレホンカードとコインが使える公衆電話があった。東館では病棟ごとに 1 台あった。詰所から離れた位置に設置され、三方が衝立で囲まれていた。患者同士の電話の取次ぎは 9:00~21:00 と掲示されていた。携帯電話は病棟内への持ち込み禁止。詰所に預けておき、外出時に受取って使う。

病室

4 人部屋が中心。各ベッドにカーテンと床頭台がある。床頭台はたんす付きで間仕切りにもなっていた。

隔離室

詰所の奥にあった。集音マイクとモニターカメラがあり、トイレの周りには囲いがあった。水などを渡すための小さな窓があり、夜間はそこから渡す。日中の食事は 2 名の看護師が部屋に入って対応する。本 3 病棟では隔離室から総室に移る段階で、ずっと総室で過ごすことが負担になる患者には、しんどくなった時に隔離室に戻って過ごすこともできるようにし、なるべく早く隔離室から出てもらうようにしている。

デイルーム

部屋は広く、窓からの光が沢山入り明るかった。給湯器、自販機があった。その日の日勤や夜勤を担当する職員が分かるように、本館ではホワイトボードに勤務する看護師の苗字の書かれたマグネットを貼っており、東館では苗字を書いた札を吊るしていた。デイケアセンターの紹介やデイケアセンター見学会の案内、訪問看護の案内等があった。

本3病棟 閉鎖 男女 57床 急性期治療病棟

任意入院 22名、医療保護入院 25名。年齢層は10代後半から80代までと幅広い。急性期の病棟で基本的には3ヶ月で退院だが、入院が長引くようなら他病棟へ転棟することもある。自宅に退院する患者が多く、入院時から退院を意識して支援を行っている。金銭は病院管理が18名、他の患者は自己管理。院内のみ外出ができる患者1名、院外も外出できる患者4名。病棟OTは月2回。個人OTは週2回から毎日と患者によって頻度が異なる。

認知症ユニット

本3病棟に施設した扉で仕切られた認知症ユニットができた。男、女各4床、個室1床。訪問時の入院者は7名。原則1ヶ月、長くて3ヶ月での退院を目指す。徘徊等で家族が家で見られない、施設で他の入所者とのトラブルが多くなった等の理由で入院する患者が多い。認知症で入院の場合はここに入院する。病室だった1室がデイルームとして使われ、テーブルやソファが置かれ、壁には梅の木を画用紙で作ったものが貼られていた。訪問時はOTプログラムを終えおやつ時間だった。OTや看護職員が患者に話しかけ、笑い声もあり、穏やかな雰囲気だった。

入浴は週2回、ユニットに隣接した浴室を通常使うが、患者の体調や入浴したいタイミングに合わせる場合、湯船をはっている急性期エリアの浴室を使う。

患者の声

「娘に10円玉を使って電話をかける。携帯は詰所に預けている。外出の時には使える」「もう退院日は決まっている」「退院したい。車椅子のため外に自由に出不来だし、退屈」「薬は部屋の入口あたりで受取る」「ここはよいところです。お金は自分で管理している。今から売店に行く」

本4病棟 閉鎖 男性 58床 精神一般 15:1

任意入院 10名、医療保護 45名、計 55名。50代～60代が多い。外出のできる患者は20名、職員や家族同伴で外出する患者もいる。月平均5名ほど入院があり、月3名程退院する病棟である。家族等の退院後の引受け手がいない患者は今現在5人未満。計画をたてたうえでそれに従い、精神保健福祉士と看護師と患者本人で、退院先を探しに出かけたり、退院先の掃除をしに行くなど退院準備を進めている。

隔離室は3床で訪問時は満床だった。2名は開放して使用していた。観察室については、個室2室分は、外から施錠をして隔離室としての使用も可能だった。2人部屋の観察室は他病院で手術を終え帰院した患者が入ることなどに使うとのことだった。観察室には15分に1回は看護師が巡回をし、飲料水の確認やラジオをつける等をしているとのこと。

ベッドの頭の上にくる部分(ヘッドボード)にはカバ

ーがついており、患者が誤ってぶつかっても怪我等が起こらないようになっていた。電動で上半身が起き上がるベッドだった。ベッド周りのカーテンは薄いグリーン色で明るく落ち着いた感じがした。

多目的室は面会室にも使われていて、テーブルが2つと椅子が各2脚あった。

訪問時は、デイルームで病棟OTが行われ、ボール投げをして何点になるかを競うゲームをしていた。スタッフを交えて10数名が楽しそうに参加をしていた。将棋やオセロを職員としている患者もいた。水曜日はプログラムを選択して参加できる。

患者の声

「散歩は5月入院以来できていない」「5ヶ月ぐらい外出の機会がない。2階の売店までエレベーターで行く。足が弱くなった」「お金は事務所で管理している。残金はわからないが気にならない」「診察は詰所の奥の部屋でゆっくりと話ができる。薬の説明は紙で受け取って持っている」「1回退院したが又任意入院して5年たった。まだ退院については決まっていない」「配膳車で部屋の前まで薬を持って廻ってくる、食後と夜8時」「入院して2週間。早く退院したい。まだ外出はしていない。食事はおいしい。糖尿食なので量は少ない」「診察はナースステーションの奥で週に1回。退院について主治医は考えておくというだけ」「暖房は快適。病名は教えてもらっていない。カルテには統合失調症と書かれていた」「入院して7年。病院の敷地外への外出は無い。お金は自己管理している。自分で売店まで行って買うこともあるが、おやつなどは看護師さんに買ってもらうことが多い」「薬は食後にホールで飲む。希望としては駅の近くまで外出して、スーパーで買物したい。もっと病棟から外に出る機会を多くして欲しい」「入院して3年4ヶ月、外出は売店まで。病院の外には出ていない。診察は週に1回。病名は聞いている。退院できるとしたら、君ぐらいと言われている。家族とナースステーションの間で話し合いをして、外泊してみることが検討されている」「母が面会に来て、そのときにお小遣いがもらえる。お金の管理は自分でしている」

本5病棟 閉鎖 女性 57床 精神一般 15:1

任意入院 11名、医療保護入院 43名。慢性期の病棟で本館3階から転棟してきた入院期間が3ヶ月以上の患者も、20年以上入院している患者もいる。長期入院の患者は東館の病棟に転院する機会が多いが、主治医の方針や同じ病棟に長くいて他の病棟に転棟することに不安がある場合はこの病棟にいる。

金銭は病院管理の患者が約30名、個人管理が20名程。外出は職員同伴30名、院内のみの患者7名、院外院内外出できる患者は13名。外出できない患者は4名。隔離処遇は7名。拘束処遇は5名。拘束患者は比較的詰所に近い病室で行われる。

訪問時に詰所に近い所に数名の車椅子の患者が座っていた。患者同士で話している姿はあまり見かけなかった。病棟内は回廊式になっており、同じ方向に向かってウォーキングしている患者が数名いた。

患者の声

「ケスワーカーには相談に乗ってもらっている。看護師に頼めばすぐに来てくれる。夜中にうるさい人がいるのがしんどい」「病棟から自由に出ることができない。病棟だけだと退屈。OTが楽しみ」

東2病棟 開放 男女 60床 精神療養

医療保護 25名、任意入院 32名。2名が外泊中。毎月1~2名の入院があり、前月の退院は2名だった。入院患者の年齢は26歳~92歳。退院できる状態になれば、担当ケスワーカーが施設等住む場探しを支援している。退院への取組みは、施設の体験利用や外出の機会をもつことなどを行っているようだ。慢性期の患者が多いので、OTセンターや病棟でバトミントンなどのプログラムや4月には花見をするなどのレクリエーションも行っている。隔離室は1床と外から施錠できる個室が3室ある。

患者の声

「14年前に任意入院で再入院した。年齢は70代。足が痛いのでここにいる。40代で障害年金の手続きをした」「小遣いは週3千円。そのお金を使って歯医者に行っている」「退院は考えていないが、職員と一緒に20年ぶりに家に帰った。玄関を忘れていた」「薬は1週間分をベッド横の鍵付きロッカーを使って管理している」「病棟から出られるのは買物の時の5分だけ。茨木にある実家に帰ってみたい」「病気の説明はない、薬の説明はもらった」「今年2月に入院した、担当看護師は3ヶ月で退院できるだろうと言っていた」「職員の言葉遣いは良い、お尋ねした時は教えてくれる」「洗濯は業者に出すように、ネット1袋、チケット670円、売店でハンコを押してもらおう」「薬の説明はないけど飲んでます。体重は1日3回測る」「退院計画はまだ、外泊許可は出ている」「日曜はスタッフが半分に減るから、面会に来てや」「どのくらい入院しているか覚えていない。毎日、ラジオ体操の第1と第2があるのがしんどい。音楽クラブは面白い。先生が楽器を弾いてくれ、参加者は歌ったりしている」「以前はバスで駅前まで買物ツアーがあったが、今はない。小遣い管理は預けている人が多いと思う」「食事については月に1回、アンケートがある」「入院8ヶ月。外出はしない。入浴は週2回。週1回の診察。主治医は丁寧に病気の話しをしてくれる。親切に話しを聞いてくれる。暖かくなってからの外泊を考えている。お金のことは妻に任せている」「入浴は週1回している。OTには参加していない。診察は週1回。主に薬についての話しをしている」

検討していただきたい事項

拘束帯について

本5病棟では訪問時、拘束帯がつけられ廊下の外からも見える状態のベッドが2床あった。(病院:対象の患者は開放観察中だったようですが、配慮に欠いた対応でした。拘束中もまた開放時間も患者自身が見えないように配慮を行います。また、そもそも拘束を減らす努力をしています。具体的には、昨年看護師が1名、「行動制限最小化認定看護師」の資格を取得したことを契機に行動制限最小化委員会の取り組みに下部組織として「看護部部会」を設け、その中で作業療法士も参加し、転倒転落防止のために拘束が必要としている方へ「筋力をつけて拘束を解除する取組みが出来ないか」を試みています。)

院内の精神保健福祉士への相談しやすさについて

患者から「OTやデイケアがあり、職員も作業療法士やケスワーカーといろいろいるから誰に何を相談したらよいかわからない。『何でも相談してください』と言われても何を相談したらよいかわからない。自立精神医療費のことを相談したくて精神保健福祉士に来てもらいたいと言っているがなかなか病棟に来てくれない」等の声があった。(病院:①医療福祉相談室は患者の対応は個別担当制を取っています。それに病棟全体のことに対応するPSWを病棟担当としています。患者から急ぎの用件がある場合は担当PSWが対応しますが、対応できない場合は病棟担当又は他のPSWが対応することを患者本人や病棟スタッフにお知らせ致します。②「何を相談したら良いか分からない」という点に関して、医療福祉相談室の精神保健福祉士とOTセンターの作業療法士に関して、自分たちの役割と対応できる領域を特に入院初期に患者に分かりやすく説明するように致します。また、パンフレットや病棟の相談室やOTセンターの掲示等を見直します。)

本5病棟の掲示物について

本5病棟ではメニューや意見箱の投書への回答など最低限の掲示はあったが、他病棟に比べると掲示物は少なかった。(病院:入浴時間や洗濯室のお知らせ等は本3病棟の掲示が分かりやすくなっておりましたので、本5病棟の方にも掲示しました。)

精神保健福祉資料より(平成26.6.30時点)

314名の入院者のうち統合失調症群が241名(77%)、気分障害が39名(12%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が15名(5%)。入院形態は任意入院90名(29%)、医療保護入院224名(71%)。在院期間は1年未満が151名(48%)、1年以上5年未満の患者が86名(27%)、5年以上10年未満の患者が33名(11%)、10年以上20年未満が22名(7%)、20年以上22名(7%)。